

ちょっと覗いてみませんか? ボランティア

ばらボラ

7月号

(通算第13号)

97.6.25

発行：東灘・地域助け合いネットワーク

TEL 078-843-4029 FAX 078-842-2907



6月の茶話やかタイムには、三味線のボランティアグループが登場。伴奏にあわせて懐かしい歌も歌いました。(6/19 魚崎仮設にて)

ボランティアを募集しています

東灘・地域助け合いネットワークでは地域の医院での「ふれあいサロン」、仮設住宅での「茶話やかタイム」、そして新しく始めた「美術館散歩」といった活動にたくさんのボランティアが参加しています。

また、お話し相手、お買い物代行、通院介助、薬とり、荷物運びなどもしています。
週1回からの参加でもOKです。

てをつなぐ力



アルコール依存症の山ちゃん

「酒の代わりに牛乳飲むねん。」

茶話やかパラソルで「酒の代わりに牛乳飲むねん」と爽やかだった山ちゃん。

この春、ボランティアたちが、ある仮設を定期巡回中に部屋で倒れていた一人暮らしの男性を発見。直ちに救急車を呼び、病院に運んでもらった。男性はアルコール依存症で、それまでもたびたび入院を繰り返し、救急車の世話になることもしばしばだった。病院に運ばれたものの、どういう事情でかすぐに帰宅した男性は翌日死亡した。

ふれあいセンターの役員

たちが葬儀の段取りを手伝い、見送った。

「お酒を飲まなかったら、

ほんまにおとなしい人やったのに。」昼間は寝ていて、隣人にもいるかどうかさえわからないくらいだった。夜になると酒を飲み

始め、夜中に隣家の壁をたたき、薄い壁なので、ものすごい振動が伝わって怖くなり、一一〇番したこともある。そんな有様なので、長い間近所と付き合うこともなかった。

そんな彼が、ふれあいセンターの催しに出てくるようになった。姓の一字を取って山ちゃんと呼ばれるようになり、お酒を控えるように意見をされるまでになった。

勤め先を、リストラで退職させられてからおかしくなってきたという山ちゃん

んの身の上話を聞き、相談にのつていた役員は「私には荷が重すぎますわ。」と言いつつも、親身になつていた。

毎週月曜日に開く茶話やかパラソルに出てきたとき、自転車の荷台のかごの中には、酒の代わりに牛乳のパックが2本も入っていた。

結局、酒から縁は切れなかったし、その苦しみから逃れられなかった。そんな山ちゃんにも、つかの間、みんなの中にいて楽しかったときがあった。ふれあいセンターや、茶話やかパラソルがその機会を作ったのだ。



神戸市が昨年の十二月に行つた健康調査で、仮設に住む約四万九千人を対象に、そのうちの約三万三千人(約六八%)から回答を得た報告によると、毎日三合以上酒を飲む人は約一千四百人いるという。また四〇代、五〇代の人で、震災前と比べて飲酒の量や、回数が増えたと答えた人は約十二%いたという。

総じて男性は、近所付き合いで打ち明け話をしたり、相談をしたりするのが苦手だ。

一人暮らしでは、人と付き合うことも少なく、不安や心配を一人で抱え込む。また食事もおろそかになりがちだ。そこから健康が損なわれ、アルコール依存症になる素地が生まれる。

NPO法と私たち との関係は？

中村順子さん

地方公聴会に出席

NPO法案についての地方公聴会が、六月二日大阪で開かれた。この日、市民側の立場で意見陳述に出席した六人の中に、当ネットワークの常任幹事であり、CS神戸代表の中村順子さんもいた。中村さんは、「東灘・地域助け合いネットワークをはじめ、いくつかのボランティア団体の設立に関わってきた。いずれも法人格のない任意団体のため、運営費などを管理する銀行口座（合計九つの通帳を持っていて！）や、電話回線の名

義、また事務所の賃貸契約などもすべて私個人の名義となっている。もし、万が一、私が存在しなくなったら、資金の行方、契約はどうなるのか。団体はどうなるのか。一個人の責任では限界があるため早く法人格を取得したい」と、NPO法の早期成立を訴えた。

この法案の目的は、ボランティア団体や市民団体が、社会的認知を受けることである。そのために法人格を簡単に取得できるようにすること、団体への寄附金には税制上の優遇措置を与えること

などが必要だ、と多くの団体が主張してきた。与党三党と民主党は、批判の多かった与党案を共同修正し、今国会で成立させる方針で合意している。しかし、この共同修正案に対しては、対象となる活動分野が限られていることや税制優遇措置に触れられていないことなどを不満とする市民団体も多く、成立させるべきかどうか評価が分かれている。

市民の自発的な活動を目指して

日本は超高齢社会になるろうとしているが、公的福祉には、限界がある。そのため様々な市民団体の責任ある活動が求められてくるだろう。法人格を得ることで自立した組織的かつ継続的な活動ができるようになる。

私たち自身が将来どん

な社会で生活したいのか、を心に描きながらそれを実現させていく力を持つたNPOを当ネットワークも目指したいと思う。（付記。この原稿締切り直前の六月十七日の情報では、NPO法は審議継続となり、秋の時期国会へ持ち越されたとのこと。廃案にならなくて、ひと安心。）



★ 社交ダンスを
おどりましょう

講師：三好純さん 東灘区住吉東町在住

約10人のボランティアと仮設住民の方で楽しんでいます。

条件：月1回を継続的に参加できる男女。音楽に合わせて体を動かすことの好きな人。

年齢不問・経験不要・月謝不要・男性大歓迎

場所：六甲アイランド第6仮設ふれあいセンターAM10:00~12:00

住吉公園仮設ふれあいセンターPM2:00~3:30

日曜日(月に1回・何週目かは未定)

※お気軽にお問い合わせ下さい。078-842-5480 三好宅

不要の電話機譲ってください。当ネットワークで使います。

1997年7月

日 月 火 水 木 金 土

		1 ●ふれあいサロン (西崎眼科医院)	2	3 ふれあいサロン 月例ミーティング	4	5
6 	7	8 ●ふれあいサロン (河原医院)	9 ●ふれあいサロン (藤田内科) 多紀郡社協と打ち合わせ	10 ●ふれあいサロン (川島クリニック)	11 東灘区ボランティア 連絡会	12
13 	14 ●ふれあいサロン (浜中内科医院)	15 ●ふれあいサロン (田中医院) ◎茶話やかタイム (御影仮設)	16 ●ふれあいサロン (深山医院) ◎茶話やかタイム (川井仮設)	17 ●ふれあいサロン (神尾小児科) ◎茶話やかタイム (魚崎1・2仮設)	18 東灘区地域ケアネット ワーク会議 ボランティアC研修	19 区民夏まつり
20 	21 	22 ●ふれあいサロン (藤田外科) ◎茶話やかタイム (手水仮設)	23 ●ふれあいサロン (有光医院)	24 ●ふれあいサロン (宮地病院)	25 ●ふれあいサロン (高瀬内科)	26 第9回幹事会
お隣の会予定 (若芽の会) 27 	28 ●ふれあいサロン (谷尻医院) 月例連絡会	29	30	31	東灘・地域助け合いネットワーク TEL 078-843-4029	

ボランティア 訪問日誌から (外出介助)



ボランティアの原田さん(四〇歳・男性)は当ネットワークに参加して約三カ月になる。今回、障害者の大森悦子さん(仮名・六七歳)宅を訪れ外出介助を行なった。

以下に原田さんの訪問日誌を紹介します。

今日は大森さんの買物のお手伝いにお宅へ伺いました。お宅に着くと大森さんは開口一番「最初皮膚科にいくのでついてきてもらって、その後買物に

いつて欲しい。」と言われました。そこで、電動車いすに付き添って病院に行きました。病院の階段の昇降の介助は体重があるのでしんどかったです。病院を終えてスーパーマーケットで巻寿司、きゅうり、おからを買って自宅に戻りました。それからきゅうりをきざんで酢漬けにしました。その後洗濯をし干しました。「背骨が痛い。皮膚がかゆい。」とおっしゃられたので、背中に薬を塗りました。

その後だんだん大森さんも打ち解けられ御自身の人生の事や芸術の話など長時間にわたって話をされました。そこには病気で苦しんでいる姿は微塵もなく目が輝いていました。初めは、細かいことまで注文してうるさい人だなあと思っていたましたが、御礼にと筆で「書」を書いていただきました嬉しく思いました。

サービス内容		4月	5月
生活支援活動	お話し相手	26	19
	通院送迎・介助	23	24
	外出介助	11	25
	薬取り代行	10	7
	買物代行	9	8
	引っ越し手伝い・荷物運び・荒ごみ出し	11	11
	簡単な修理・修繕	1	0
	仮設巡回	115	81
コミュニティ支援活動	ふれあいセンター	8	8
	茶話やかタイム	4	4
	ふれあいサロン	13	13
	美術館散歩	1	1
	心のオアシス(手水仮設)	1	1
	その他のイベント	1	0
情報提供活動	ボランティア研修	2	1
	「ばらボラ」発行(取材・編集・発送)	17	11
	パソコン事務処理	5	8
	外部会議出席	5	6
	講師・パネラー	0	0
その他	Vr送迎	19	23
	昼食準備	25	25
サービス件数		307	276
一日平均サービス件数		12	11
参加ボランティア総数		446	417
一日平均ボランティア数		17	16
登録ボランティア数(累積)		1426	1444

研修の案内

B 研修		C 研修	
日時	講師	日時	講師
六月二十八日(土) 十三時半から十五時まで	斉藤文夫先生(臨床心理士)	七月一八日(金) 一三時半から一五時まで	星野裕志さん(当ネットワーク常任幹事)
内容 心理療法士を囲んでボランティアの心得・悩みなどを話しあう		内容 日常の活動の課題、疑問、問題点などを話しあう	



今月の
新規ボランティアは

11人
でした

飯田邦子さん
魚住勢津代さん
後藤文子さん
吉弘浩子さん
今田由美子さん
郡山仁志さん
友原貴陽子さん
宮本慎也さん
宮本タズ子さん
宮本ユリさん
山見英男さん

ご支援ありがとうございました
97.5.21~97.6.20にご寄付、
物品をいただいた方たちです。

動氣会一同
峯本佳代子
桑山美智子
大西ふみ
ヨシダテツコ
(敬称略)

東灘・地域助け合いネットワーク
〒658 神戸市東灘区住吉東町
2-3-28 東灘区役所中庭事務所
TEL 078-843-4029
FAX 078-842-2907
e-mail
tasukeai@mx.meshnet.or.jp
http://www1.meshnet.or.jp/
~tasukeai/

どんな人、どんな人

たつた けん
龍田健さん 48才 東灘区本山在住
民生児童委員・塾講師



塾の講師を務めるかたわら、民生児童委員のお世話をされている。震災では住んでいた市営住宅の全壊にもめげず、その十日後には住宅復興推進委員会に参加。再建への着工はちょうど一年後であった。少し余裕ができたので、社会参加をしたいと当ネットワークにも登録。本庄仮設の巡回・茶話会を担当。さうそく持ち前の行動力とバイタリティを発揮。茶話会の話題はもっぱら住宅問題である。仮設では弱者が優先的で、働き盛りが切り捨てられる状況があると感じている。職業柄でもあるのか仮設の受験生の住宅環境などにも頭を痛めている。

超多忙、スケジュール表は真っ黒。

また今年の四月には市営住宅の入居が始まり自治会長に就任。やれ水道が出ないなど、戻って来られた住民のトラブルを一手に引きうけている。こちらは休日や時間に関係なく問題が舞い込んでくるので大変だ。

現在は仕事5・自治会4・ボランティア1の超多忙。好きな山登りにも今は行っていない。困っている人と同じ目線で行動できたらなあという思いもあるが、「今は忙しすぎて志が見えなくなってきた」と言う。ボランティア、自治会長、民生委員の立場の違いを痛切に感じている。

編集後記

- 事務所にクーラーが付いた。嬉しい。(竹内克仁)
- この作製にはかなり苦労します。ぜひ感想を聞かせてください。(上村光代)
- 編集委員募集。人が好き!書くことが好き!そんなあなたを待っています。(村山メイ子)
- 雨がやんだあとのキラキラした緑の輝きに、思わず深呼吸。(原俊子)

活動維持のために

ご協力ください

銀行振込

さくら銀行 甲南支店
普通口座 3994604
口座名義 東灘・地域助け
合いネットワー
ク 中村順子

郵便振替口座

01140-9-88648
名称 東灘・地域助け合
いネットワーク